

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
 編集者：代表幹事 高橋 賢一
 連絡先：市民活動支援センター
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7
 (渋川福祉センター内)
 TEL 0561-51-2878

G 戦士 ミスター 追憶

長嶋茂雄・巨人終身名誉監督が89歳で亡くなったから、3日でも1か月になる。ミスタープロ野球と呼ばれた国民的ヒーローは、選手たちにとり映っていたのか。当時の主力選手が脳裏に焼きつく姿や、こまやかな配慮を述べた。

(編集委員 小金沢智)

死去1か月

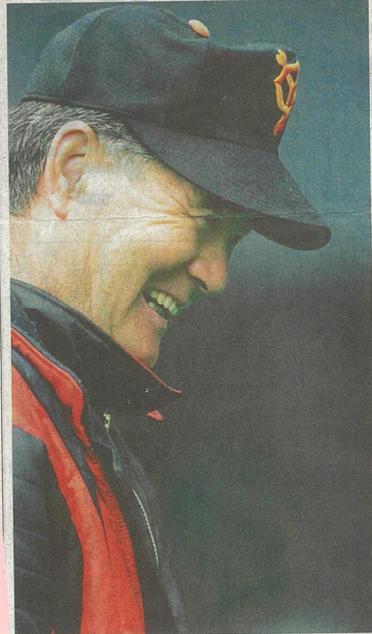
正捕手として活躍した村田真一さんは、「監督の厚意を一生忘れない」と話す。1997年、大の長嶋ファンである父の正明さんが、がんで余命1年と宣告された。最後の思い出づくりにと、「オヤジと一緒に写真を撮ってもらえませんか？」とお願いしたところ、「お前のお父さんは家族と一緒だ」と快諾してもらった。

遠征の際、選手宿舎で予定をずらして会ってくれた。縮して10分ほどで「監督、そろそろ」と終わらせようとす

病気の父に親身感謝

村田真一さん

95年、広島からフリーエージェント権を行使して巨人に



勝負に厳しい采配を振るいつつ、こまやかな配慮で選手から敬愛された長嶋茂雄監督(1998年3月撮影)

10・8決戦 笑顔

斎藤雅樹さん

移籍した川口和久さんは、長嶋監督に直接電話で誘われて心が動き、入団を決意した。翌年には最大11・5ゲーム差をひっくり返すメークドラマで胴上げ投手となり、涙を流す。投げる予定の投手が試合前に監督の部屋に呼ばれ、最後は川口が行くぞ」と鼓舞された。一抑えの自分が締めるのは当たり前なのにわざわざ言ってもらい鳥肌が立った。長嶋さんに憧れて野球を始めた。本当に幸せ」と語る。

6月7、8日に執り行われた。

2004年のアテネ五輪、脳梗塞で倒れてリハビリ中だった長嶋監督から、毎試合のように現地へメッセージが届き、中畑清ヘッドコーチが選手に読み聞かせていた。メンバーの一人、高橋由伸さんは「倒れてもおお、僕らと一緒に戦っているんだと、みんな熱い気持ちになった」としみじみ振り返る。

五輪の出場権がかかる前年

た葬儀で、長嶋さんは黄色のセーターを着ていた。今年3月に東京ドームでドジャースの大谷翔平と面会した際と同じセーターだ。川口さんは淡い色をいつもうまく着こなすかたで、葬儀での姿も格好良かった」と、しみみりと思いつく。



長嶋さん愛したおでん店再現

Gタウンスタジアム かつて巨人の専用球場だった旧多摩川グラウンドの近くで営業し、往年の名選手らに親しまれたおでん店「グラウンド小池商店」が、ジャイアンツタウンスタジアム(東京都稲城市)内に再現され、2日に報道陣に公開された1写真。

同店は昨年末に閉店し、

由伸さんは語る。「伝道師たれ」という言葉は今でも胸にある。アテネの時だけでは、監督の情熱に触れた当時のメンバーに今でも思いつく。シだと受け取っています」

店を切り盛りした高橋文子さんが店に飾っていた選手の写真、バットなどを球団に寄贈した。若き日の長嶋茂雄さんも来店したといい、高橋さんは「いつもおでんとファンタグレイプ。必ず鏡で身だしなみをチェックしていた」と懐かしむ。今後、スタジアムツアーなどで一般公開される予定。